

壁画 13

2023.9.25
執筆発行／池田康

オペラ絵草紙 ……モーツァルト…

フィガロが何者であるかフィガロも知らない
自分の心に陥穽をこさえる恋人たち
美少年は羊少年であり狼少年である
カンツォネッタが女たちの胸に滑り込む
ベッドの寸法を測るフィガロと伯爵
ダイヤモンドが伯爵夫人に歳を尋ねる
少女たちのコーラスに混じるヴォルフガングの鼻歌
鉄砲百合を背負い行軍するあだ恋
蝶は塔の牢の窓から飛ぶ
伯爵が裁判をさばく 音楽がAをさばく
松の木の下に麗しき暗闇あれ
おおスザンナ 君は業火の苦痛をもたらす！
バルバリーナは凶器のピンを探して夜の国をさまよう
ご破算の絵札はアルルカンの小姓のポケットの中
高低をうたう階段の幾何学式まやかし
この世は一幕と二幕と三幕からできている
カーテンコールで手をつなぐ世界平和の虚構
アンナは真面目すぎる父親が死んだからって
エルヴィラは真面目すぎるちよつと袖にされたからって
ツェルリーナは真面目すぎる許婚に叱られるからって
ジョヴァンニはギターをつまびきセレナーデをひねる
レポレットは真面目すぎる貴族というものがわかってない
騎士長は真面目すぎる恨みがあるとして石に蘇らなくても
マゼットは真面目すぎる女を一人占めしないと気が済まない
ジョヴァンニは踊りながらココアを飲みシャーベットをなめる
指揮者は真面目すぎるホルンが音を外したら鬼の形相
作曲家は真面目すぎる従者や農夫にまで歌を書いてやるなんて
脚本家は真面目すぎる主人公を天罰で死なせてしまうとは
ドン・ジョヴァンニは立ち上がり奈落の埃を払う
こりやまずい洗濯に出さなきゃならん

夜の女王は歌をうたいすぎる癩症の脇役
パバゲーノは歌をうたいすぎる能天気な脇役
タミーノは堅物のもやしっ子の脇役
パミーナは泣き虫のもやしっ子の脇役
ザラストロは奇妙に偉そうな低温の脇役
パバゲーノは奇妙に好都合なはりぼての脇役
三人の侍女ははりぼての童を退治するかましい脇役
三人の少年はどこからきたのか訳知りの脇役
さてはモノスタトスが主役だろうか？
タイトルロールはおれさ 夜の王の笛
アマデウスの魔笛がうそぶく

髪をかたるみずちの譜

1 山鳥の尾のあやにしだる
黒髪さわにさわぐ魑魅夜
ほととぎす哀韻うたいやまぬ
天守閣に星の陰陽をしらす
あしびきの病魄いたぶる暗夜白夜
その永き薫風をさせて天
はるかに垂れて滝
有象無象あまねく絡め落とし
流れてふざげ戯れるみぐしの筋
心文字を溶かす黒は何も縛らないが
すべての言葉はこれに抜かれたいと冀う
山鳥の尾の夜長にあやされる無我夢

2 一本一本は個別番号をもっていて
その番号を唱えることで異界にすべり
当該個体の神をあやつる糸となる

3 古墳をあばき
石の柩をあけてみると
骨も副葬品も見つからず
ただ伸びに伸びた白妙の黒髪ばかり
めいっばい詰まっついて

4 男が溺れている
黄金の川は筋をそろえてうねり
笑うかのように艶やかな漣をたてる
獲物をもてあそんで無心に流れ
百年を横断し 千年を縦断し
ついに滝となつて落ちる
それは特別な
まつさかさまの一夜
奈落の水しぶきは
今際の泡の阿
咩の音楽？

5 黒髪にかどわかされ
女がながれてゆく
葦にしがみつぎ
石を抱き
土噛み
尼僧になり剃髪しても
夢の中で
少女のように

6 おそろしく長い髪は
切ると
おそろしく長い叫びをあげるのさ
と
床山の婆は語る

7 櫛が愛撫することもある
風が颯することもある
花で飾られることもある
水に洗われることもある
手で高く編み上げてもらうのが好き
それをほどもらうのがもつと好き

8 黒髪ぬばたまの滝
流れ落ちる三尺はや
千年の思念
闇を濾して夜をつくり
ゆれて魔法
乱れて嵐
しずまれば岬嶽として高く
山鳥の尾のしどけなく
はしなくはてしなく落ち
滝壺 魂の眼球の
襖 感溺 熟睡の
くるめく黒の渦流
小さな壺よ
どこにでも星雲の渦をこしらえ
意のままに書き変える山水流転
真夜の谷に風はげしく
ぬばたまの滝に星流れ
願いごと行方不明
ゆれて魔法
乱れて嵐
三尺はた千年
あらたまの命の丈
ぬばたまの祈の滝
狂おしく滾つ